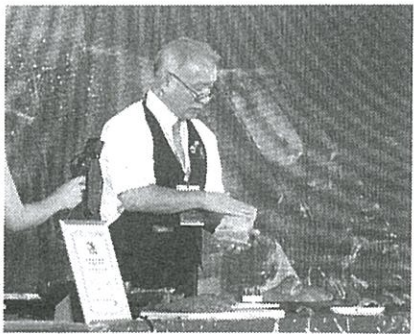


# 台湾で和牛PR行う

## 日本畜産物輸出促進協



①カッティングと調理実演を行う植村常務 ②日本畜産物輸出促進協のブース

日本畜産物輸出促進協議会はこのほど、台湾の台北市世界貿易センター1号館で開催された2018年第4回「Touch The Japan 観光文化展」に出展した。

同協議会では、海外で畜産物を紹介する試食会やレストランなどでの畜産物フェアなどを開催することを通じて、需要フロンティア開拓を図ってきたが、今回のフェアは海外で行う初めてのBtoCで、消費者を対象にしたイベントとなった。台湾への和牛輸出実績は、昨年9月の解禁からつねに高水準を維持。台湾からの日本へのインバウンドは400万人を超えており、和牛の輸出货量とインバウンド需要を合わせると、最重要輸出対

象地域となっている。

第6回「台湾国際旅遊展」と同時開催で行われた「Touch The JapanX」は「あなたの触れたい日本がきつとみつかる」をテーマに、日本文化や食文化を通して日本をアピールする展示会。

日本の各都道府県の特産物や各地の食文化の紹介が多く、観客の目を引いていた。期間中の4日間に入場者総数は27万人を超える一大イベントとなり、多くの報道関係者の注目を集めた。

イベントでは2小間（18平方メートル）のブースを中心に和牛肉の説明と試食が行われ、300席あるメインステージでの和牛の特徴説明、カッティングと調理実演が行われた。使用部位はロースと

モモが用意され、ロースからはステーキ、あぶりずし、串焼き、モモからはステーキ、あぶりずし、カルパッチョ、あぶりユッケが調理実演された。

メインステージでのプロモーションはつねに満席であり、立見を入れると毎回500人を集める大人気のイベントとなった。さらに主催者の国際観光文化推進機構から多くの聴衆を集めたことと、和牛肉への羨望の眼差しを集めたことでベストステージパフォーマンズ賞を授与された。メインステージに登壇したミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役は「台湾での親日ぶりもさることながら、和牛に対する人気の高さは他の地域以上の熱気を感じた。さらなる需要創出を期待する」と述べた。